

2021.12.19

ご報告：12/18 第 28 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

師走も半ばを過ぎ、クリスマスさらに年末年始の足音も高まる季節を迎えています。

何かと気忙しさや1年の締めなど感じられるなか、12/18に第28回働学研が開催されました。諸事情が重なり、準備や対応も遅れがちで、うまくいくのか心配でした。

そうしたなか、ご参加いただきました25名の方々（下記）には、心よりお礼申し上げます。（敬称略：井手、井本、岩田、太田、小野、柿野、片山、聴涛、木林、熊坂、桜井、澤、田中、槌田、程、中野、中谷、濱、平松、堀、三輪、守友、横田、十名、他1名）

「仕事と労働の過去・現在・未来」をテーマに、2部構成で、5本の研究発表がなされました。現役者&年金者、そして20歳代の感性と60~70歳代の熟成の視点から、切り込んだものです。

第1部は太田さん、第2部は濱さんに司会をしていただきました。

第1部 勤勉・勤労思想と大企業の経営（司会:太田）

第2部 青・壮・老の仕事とサステナビリティ（司会：濱）

熱のこもった発表、そして活発な議論が展開されました。

司会の妙と各位のご協力もあって、配分（35分/本）に沿って進めることができましたこと、感謝申し上げます。

12/18 第 28 回 働学研プログラム

（司会：太田・濱・十名、画面：澤 & 発表・議論各15~20分：計35分/本）

仕事と労働の過去・現在・未来 —歴史・技術・思想的アプローチ—

第1部 勤勉・勤労思想と大企業の経営（司会：太田）

堀 隆一：「日本の勤勉・勤労思想の経営学的研究 —神代から現代までの社会思想(1)」

十名直喜：「書評 堀隆一『日本の勤勉・勤労思想の系譜 —神代から現代までの社会思想』」 & 堀・十名「製鉄所での仕事・研究人生をめぐる対話」

片山勝己：「大規模製造業における工具調達の効率化」

第2部 青・壮・老の仕事とサステナビリティ（司会：濱）

平松民平：「労働と仕事への視座 —桜井善行「シニアの生きがいとエイジングへの対抗」へのコメントを通して」

澤 稜介：「書評 十名直喜[2022.1]「サステナビリティの経営哲学 —渋谷栄一にみる日本資本主義の原点と21世紀課題」SBI大学院大学紀要3校」

堀さんの発表は、2021.4 出版のご本『日本の勤勉・勤労思想の系譜』をふまえ、1~4 章を中心に 2 千年にわたる日本の勤勉・勤労思想を問い直したものです。これに対し、勤勉思想と実践の歴史的系譜、とくに指導者・民衆・権力の関係、さらに現代の QC 活動と勤勉の関係、その成功と衰退の原因・背景、等について議論が交わされました。

十名の発表は、堀さんのご本（とくに 1~4 章）を書評したものです。献本を機に行った 1 か月間に及ぶメール対話、とくに製鉄所での仕事・人生論を起点にしています。勤労と勤勉を区別することの意義と課題、勤勉なのに労働生産性が低いことの背景・要因、勤勉とは何か、日本の勤勉と海外との勤勉の違いと共通性、等について議論が交わされました。

片山さんの発表は、自動車メーカーにおける工具調達の変遷と未来を、生産・営業・商社など多面的に深掘りしたものです。道具と機械、技能と技術の関係、効率化とは何か。そして、秀逸な業務報告書を、研究論文へさらに博士論文へと編集するポイント、理論的な仮説とその検証、政策的な提示の関係、等について議論が交わされました。

平松さんの発表は、11/20 働学研の桜井発表に触発され、「労働としごと」とポジティブエイジングの関係について、H.アーレント[1958]『人間の条件』、十名[2020]『人生のロマンと挑戦』などをふまえ理論的、思想的に深め問い直したものです。Take から give へ、「労働としごと」の図式化、『資本論』における両者の捉え方、等の議論が交わされました。

澤さんの発表は、紀要論文（十名[2022.1]「サステナビリティの経営哲学」）に、20 歳代の若い感性が鋭く熱く切り込んだものです。ICT の資本主義的利用がもたらす光と影、インターネットが促す同質化・視野狭窄・囲い込み、それに対する多様性・広い視野・公。人のつながり（=富）を促す「しごと」、その触媒としてのシニア論、等が議論されました。

最後の全体討論でも、いくつかの論点が出されましたが、定刻となりました。次回に議論できればと思います。

渋沢の経営哲学が問いかける資本主義改革とは何か。日本企業の自前主義を、外資系企業が目線、企業社会論、『論語』（「学ぶ」と「思う」）等から捉え直す。地球限界時代における欲求の無限性を、「足るを知る」視点から問い直す、など。

<付記>

新春の 1/22 第 29 回働学研、そして 2 月以降についても、発表を受け付けています。

十名（tona@iris.eonet.ne.jp）までお知らせください。お待ちしております。